在校生～保護者～OB 世代間 交流プロジェクト

第１３回「三世代をつなぐ駒カフェ」開催の報告

在校生対象の第１３回「三世代をつなぐ 駒カフェ」が 2022 年 6 月 18 日（土）13 時から 15 時まで第１会議室にて対面で開催することができた。スタッフは、在校生のメールでの事前予約はなかったので、参加者がいるのか、当日まで不安な気持ちだった。当日は、中１生が数名、会場に足を運び、短時間であるが OB たちと笑顔で話をしている姿を見ることができた。駒カフェ閉店まで OB スタッフと個別に話をしていた在校生３名（中３：２名と高１：１名）は、「まもなく終了予定時刻です」と伝えたとき、「もう 2 時間経ってしまったのか」との声が上がっていたので、2 時間集中して OB スタッフとの会話を楽しみ、いままで考えていたことをより深くすることができたようだ。

今回、「駒カフェ」の目的と活動に共感してくれた３９回生の佐野恒二さんと 47 回生の工藤真史さんも参加して開催することができた。異なる世代の OB たちと話をすることは、在校生だけではなく、スタッフにとっても、今まで気づきかなかったことを感じることができた「駒カフェ」となった。

参加生徒の感想

① 今回、先輩 OB 方にお話を聞くことができて、普段あまり意識していなかったことに気づくことができ、今後のことについてのアドバイスも頂くことができました。こういう機会は初めてであったため、最初はどういうことを話せばいいか分からなかったけど、話している中でだんだん楽しくなっていき、どんどんお話を聴きたいなと思えるようになりました。また機会があれば参加したいと思います。

② 駒場東邦の昔の話を聞かせてもらって大変面白かった。深く考えさせられるような話をたくさん聞くことができて面白かった。価値観を拡げることができた。

③ どうやったら駒カフェに人が集まるのかについて話し合いました。僕の印象として、周りの駒東生で“考えているひと”は少ない。駒カフェ側から、在校生相手に考えるきっかけを作ることが大事と考えました。思考という動作のきっかけとして、様々な経験がもたらす感情というものがあげられると思います。しかし、経験というものは一朝一夕で手に入るものではありません。そこで、経験、いわば、知識を先に共有することが大事になってくるかもしれません。人生における経験がなくとも、事前に共有された知識があれば、その知識を基にして何かを考えることができると思います。そこで、僕が考えたのは、一回一回の集いのテーマをはっきりと、具体的に決めることです。例えば、物理について語る回を作るとしましょう。学校や本、塾から得た知識を基づいて、物理の本質や学問の本質というように考えることができるようになるかもしれません。この場合、物理に興味を持っている人は、数人現れるでしょう。そして、駒カフェをきっかけに思考に慣れていく人も生まれると思います。今までは、テーブルを一つ一つのテーマの集まりとして扱っていると聞きました。しかし、それでは宣伝の時に意味の伝わりにくいポスターを生むかもしれません。駒カフェと同じような学校のイベントとして、人材育成講演会というものがありました。先日行われたものでは、大変人気があったそうでした。特定の分野のスペシャリストを招き、講演するという内容でした。この形式は、考えて、話し合うことをコンセプトにしている駒カフェではなかなか厳しいかもしれません。しかし、テーマに沿ったスタッフの皆様による短いプレゼンのようなものがあっても面白いかもしれません。テーマを決めることも、何か駒カフェ内のイベントを作ることもそうですが、今の駒カフェでは、なかなか何がやりたいのか、何をすればいいのかがうまく伝えられることができていないと思います。ここを中心にもう少し改善してみるのもいいかもしれませんね。また、次回お会いした時に、話し合いましょう。

OB スタッフの感想

① 久し振りの対面形式であり、参加してくれた駒東生とは、かなり掘り下げた対話がなされたように感じました。たまには気晴らしに駒東 OB と話して実社会の状況でも探ってみようかといった雰囲気が駒東生に広がってくれたらと願っています。人材育成の問題は、団塊の世代のわたしたちの頃とは様変わりしているようでもあり、スタッフ同志で少し話題になりました。今回参加してくれた 30 代、40 代のスタッフも含めて話し合ってみるのも興味深く感じました。

② 爽やかな中 3 の生徒さんとの話題は、直ぐに見つかりました。「集中」「熱中」です。中高生の時に、集中できる事に出会ったこと、熱中できる事を見つけたこと、それらは貴重な体験だったと思いました。まず、“October Sky”（「遠い空の向こうに」、注）という映画をご紹介しました。読書は苦手の私が、中 3(高 1？)の時に、「数学入門(上)、(下)」（遠山啓、岩波文庫）と出会い、のめり込んで読んだことが、数学に興味を持つきっかけの一つになったと、思い出を紹介しました。私の楽しかった熱中体験が、60 年の時間を越えて、新たな夢と可能性に繋がることを予感しました。気付いたら 2 時間が過ぎて、感謝のありがとうでした。また、駒カフェでお会いしましょう。

注：1957 年 10 月に人類最初の人工衛星「スプートニク」が打ち上げられた。機影を追う高校生の主人公は、ロケットの打ち上げに熱中する。苦手の数学は、先生から貰った参考書で克服して、高校生のレベルを超える。科学コンテストで優勝し、大学の奨学金を得る。その後、NASA に勤務という実話。

駒カフェに対する提案を次のように考えています。カフェという雑談の場は、まだ現役生には馴染みのない社交の場であるのかも知れないと感じました。幼稚園、小学低学年生に、カフェと言っても馴染まないのではないでしょうか。この年代は、自我の育成期（勝手な見方ですが）であって、「話し合い」を楽しむ振る舞いは見られないと思います。公園のベンチや喫茶店に集まって、

雑談をする年代は、中学生でしょうか？もっと上の世代？昔を思い返すと、大学の頃は、下宿に集まって夜を徹して雑談をした。中高生に馴染む、雑談の場をイメージしてみました。中高生と大学生や社会人との大きな違いは、経験の量だと思います。受験や恋愛など経験もなければ、大きな衝突の経験も少ない。雑談は、経験に基づくもので、異なる経験。経験からの価値観の違い「多様性」が話題を牽引すると思います。経験が少ない時は、疑問や課題の知識の収集が活動の中心になる。授業や受験になると思います。求められる雑談は、そこで感じる疑問を明らかにして納得すること、課題を解くことを競い、その体験を共有すること、与えられた課題に対して意見を交換すること、などでしょうか。保護者は異なると思います。未経験は、育児と教育で、そこに悩みは雑談の話題になると思います。一般の話題も成り立つと思います。それの経験者(世代)との雑談の場は有効なことは、明らかでしょう。雑談のきっかけが、参加者が体験した「経験」ではないでしょうか。未経験者は「課題」や「話題」を通して、雑談に興味を持つ。そんなことを感じました。

③ 「多様性」について高一の生徒と話をしました。距離感を感じる人は、会話を避けるよりもむしろ近づいた方が良い事があります。それは、自分の目線とは異なる、自分は知らない目線をその人が持っているという事です。「自分が知らないという事を知らない」事を教えてくれるのです。普段から付き合っている、同様の考え方ばかりの仲間からは学べない部分です。気付きのヒントにはなったようです。もっと多くの例を今後更に話していきたいとおもいました。

④ 第１会議室の入り口のガラスに駒カフェのポスターを貼らせていただきました。だんだん素敵になってますよね！　７回生と保護者 OB のこころを込めたメッセージ！　ひとりで悦にいっておりましたがその通り！　毎回、新たな気持でお待ちするスタッフ一同です。

補足追加：「駒カフェ」の良さを駒東の皆さんにお伝えするために、悩んで見ました。「第１会

議室の入り口のガラスに駒カフェのポスターを貼らせていただきました。だんだん素敵になってますよね！７回生と保護者 OB のこころを込めたメッセージ！ひとりで悦にいっておりましたがその通り！」「駒カフェ」を知っていただきたい、そんな思いで、ポスターの前で呼び込みをやりました。学園祭の気分？　足早に帰る大勢の中で、興味を持っていただいた皆さん。今日は、予定があって参加出来ない。残念。途中までだけど、参加します。そんな言葉を嬉しく思いました。会場では、他のスタッフにバトンタッチ。「毎回、新たな気持でお待ちするスタッフ一同です。」少しずつ、広がっていく 輪が、楽しみです。

⑤ カフェ実施一週間前にスタッフ一同がかなり気に入ったポスターを作製。その効果があって参加生徒が増えることを願った。ウーン？　開始すぐ４～５人の中一生徒と「ＡＦＨＬＭ□の□に入るアルファベットを考えよう‥‥」などというゲームを楽しんだ。(面白かった)そのあと中三の某君とかなり長い会話をした。彼は駒カフェを楽しみにしてくれていて　今回は「中国文化と日本文化」などという話を熱っぽく語った。李白の漢詩や最近行った歌舞伎教室のチョボ(義太夫)音楽を“美しく感じた”と表現した。感性を豊かにすることは彼にとって大事なことだ。私も楽しかった。また私が顧問をした歴史部の 47 回生　担任をした 39 回生の二人が助っ人で来てくれたのも嬉しかった。

⑥ 今回初めて駒カフェに OB としてお邪魔しました。コロナ禍の中で企画が走り始め、ZOOM 開催が多くて久々に対面型とのこと。自分の駒東時代を思い返せば目の前の勉強や部活・遊びで手一杯、当時の悩みやその後の将来を大人と語るなどと考えてもいませんでした。中高生の次の命題

は大学受験を望み通り突破することなんだと思います。受験勉強中心になりがちですが、青春時代に情熱を注げる「余分な」何か、「非日常」の経験がいかにその後の将来に自信を与え、発想や思考の基礎となり、そして将来まで続く仲間との絆を作れるかのカギになったように思います。受験はあくまで最初の通過点で、勉強もその手段に過ぎません。むしろそこから先の長い人生において自分が何をしたいか・どうありたいかを可能な限り具体的にイメージすることが大切に思えます。自ら考えて、自発的に物事に向き合える人材を世の中も欲しているように思います。いずれ駒東生は社会を背負って様々な課題に向き合うことでしょうが、その大半に正解はありません。解決のヒントは「余分な」ことや「非日常」の経験にあるかも知れません。後輩の皆さんが自身の将来をイメージでき、不安を和らげられるようなお手伝いが少しでもできればと思います。最初は月イチで土曜放課後にジュースとお菓子をくれる怪しいオジサンからスタートして、いずれ興味を惹く話をしてくれる OB のオジサンと現役駒東生に認知してもらえるようになれたら幸いです。やはり画面よりも対面の方がお互いの思いは伝わりやすいとも思いました。7 回生の大先輩や平野先生の駒東への思いは敬服する限りですし、私自身の今を考える機会ともなりました。仕事と家庭の狭間でなかなか身動きが取りづらい世代ではありますが、世代間を繋ぐようなスパイスを駒カフェに効かせられれば幸いです。

⑦ 『こんな素敵なカフェが開かれている事を偶然知り、今回初参加させていただきました。参加の呼び掛けをしていると、足を止めてポスターを眺めている生徒や「いつやってるんですか？」と聞いてくれる生徒が。こんなことやってるよ、こんな魅力があるよを十分に伝えられなかった気がしますが、興味を持ってくれてありがとう！　受験が近くなると、勉強以外のことに参加する余裕もないよなぁと思いつつ、でも普段は考えないことに触れたりできるタイミングだとも思います。今の自分がどんな場所に居るのか、一度立ち止まって考えるチャンスかもしれないので、

是非一度足を運んでもらえたらなと思いました。（私も在校生の皆と一緒に、大先輩方から色んな事を学んで行きたいと思った次第です…）』

⑧ 今回は久しぶりに対面での駒カフェを開催することができた。Zoom での開催とは異なり、話し手の表情から伝わってくる熱量を感じた。参加者はそれぞれが OB スタッフとの会話を楽しみ、何か新しい気づきがあったようだ。駒カフェに興味を持ち、勇気を出して参加した生徒の行動力は素晴らしいと思う。OB スタッフも在校生と明るく楽しそうに会話することができた。会話をすることで、今までの自分には気づかなかったことやこれから何かをするときのヒントを得ることができたらいいなと思う。多くの在校生に「駒カフェ」の存在を知ってもらい、気楽に参加してもらえるように「駒カフェ」で何をしているのかがわかるような工夫をしたい。

○ 駒カフェの開催報告をご覧になって、興味を持ち、参加してみようかと思われた方は、下記に記載の運営事務局までご連絡願います。次回以降の駒カフェ開催案内をメールで送らせて頂きます。

○ 本校のホームページで、「駒カフェ」のバナーをクリックすると、今まで開催した駒カフェの報告書を見ることができるようになりましたのでご覧ください。

「三世代をつなぐ駒カフェ」運営事務局

代表 黒岩　誠（駒場東邦 7 回生/前スクールカウンセラー）

平野　勲（駒場東邦スクールカウンセラー/前校長）

連絡先　komacafe1540001@gmail.com

駒カフェ☕でお会いしましょう。